

インドネシア, スンバ島における衣生活 (第3報)

—— 日常の衣服着装とその変容について ——

古川智恵子・森川里子

Study on Clothing Life in Sumba Island, Indonesia (III)

—— Daily Wear of Clothes and its Transition ——

Chieko FURUKAWA and Satoko MORIKAWA

はじめに

前報では、スンバ島の調査地域である4集落の、伝統的社会構造の中における、日常衣生活の実態をとおして、衣服の所有、分類、収納、管理に視点をあて分析を行った。

本報では、それらの所有衣服の形態、着装、組合せについて、生活行動および地域別特徴との関連を追求し、併せて現在に至る衣生活の変容について調査考察する。

調査方法

1. 調査時期

2. 調査地点

3. 調査対象および方法

第2報と同様である

4. 調査内容

- (1) 基本属性
- (2) 衣服形態
- (3) 日常の男・女着装の衣服組合せ形式
- (4) 生活行動と衣服組合せ
- (5) 地域別衣服形態の比較
- (6) 衣服の変容

以上6項目について調査したが、(1)基本属性については第2報と同様である。したがって第3報では、(2)、(3)、(4)、(5)、(6)の項目について調査分析した。調査表の作成、資料の整理については第2報に準拠して行った。

結果および考察

1. 男女の衣服形態

表1に男女の衣服形態を示す。スンバ族の衣服形態は大別すると、男女とも二形態に分類される。伝統的スタイルと西洋的スタイルである。

(1) 伝統的スタイル

伝統的スタイルは男性は上衣にTシャツか開襟シャツ、下衣はヒンギ(2報. 項目3-(1)参

照)を着装する(図1-a). 盛装用にはスレンダー(肩掛け), ティアラ(頭布)をつけるが, 日常は着用しない. 女性は上衣にTシャツかブラウス, 下衣にラウ(腰布)を着装する(図1-b). またジャワ式のサロン(サルーン)も多くの人をつける. 衣服の着装に関しては例えば日常腰巻をつける場合に, その結び方は自由で千差万別である. また腰布の場合においても着装時にウエストの周囲にゆとりができるが, このゆとりを右巻きにするか左巻きにするかは個人の好みにまかされている.

(2) 西洋的スタイル

西洋的スタイルは伝統的スタイルの上半衣に下半衣を, 男性はチェラナパンジャン(長ズボン)かチェラナペンデック(半ズボン)を着用し, 上半衣はバジュカウス(Tシャツ)かバジュ(開襟シャツ)を着用する(図2-a). 女性は上半衣は伝統的スタイルと同様で, 下半衣にバワハン(スカート)を着装する(図2-b). 以上のようにいずれも下衣により性の分化と形態の分類が確立している.

2. 日常の男・女着装の衣服組合せ形式

図3に日常の男・女着装の衣服組合せ形式の着用率を示す. 男性はTシャツと長ズボン, 女性はブラウスとスカートの洋式組合せが最も多いが, 二位には男性はTシャツにヒ

表1 男女の衣服形態

性別 区分の 服装	男 性		女 性	
	上 衣	下 衣	上 衣	下 衣
伝統的 スタイル	Tシャツ (ハジュカウス)	腰巻 (ヒンギ)	Tシャツ (ハジュカウス)	腰布 (ラウ) (サルーン)
	開襟シャツ (ハジュ)		ブラウス (フロース)	
	ワイシャツ (カウス)			
	肩掛け (スレンダー)			
	頭布 (ティアラ)			
西洋 スタイル	Tシャツ	長スホン (チェラナ パンジャン)	Tシャツ	スカート (ハワハン)
	開襟シャツ		ブラウス	
	長袖シャツ	半スホン (チェラナ ペンデック)	ワンピース	
肌 着		パンノ (チェラナー)		バンティー (チェラナ ダラム)

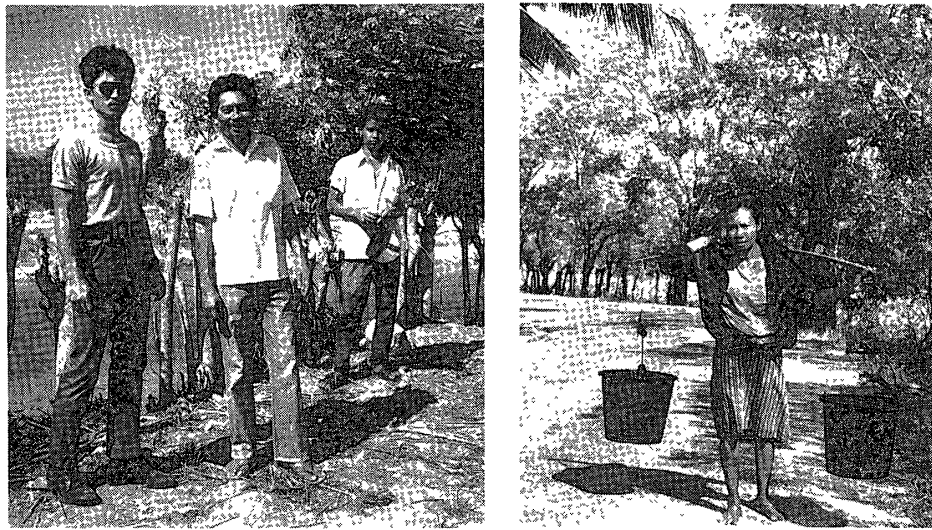


a 男性 (Tシャツ・ヒンギ)



b 女性 (Tシャツ・ラウ)

図1 伝統的スタイル



a. 男性（長ズボン・Tシャツ
開襟シャツ）

b. 女性（スカート・Tシャツ
ブラウス）

図2 西洋的スタイル

ンギ，女性はブラウスにラウの伝統式組合せが見られる。以下，図に示すように伝統と洋式の着用率が見られるが，この二形態を総合して比較してみると，男女とも洋式スタイルが男性57%，女性50.5%と過半数を占めている。これらの現象は，スンバ族の伝統的着装体系の中に今や過半数位の人が西洋スタイルの既製服を購入し着装していることであり，集落の衣服文化変容への一端を示しているものと考えられる。その行動が最も顕著にあらわれているのは若い世代の者である。

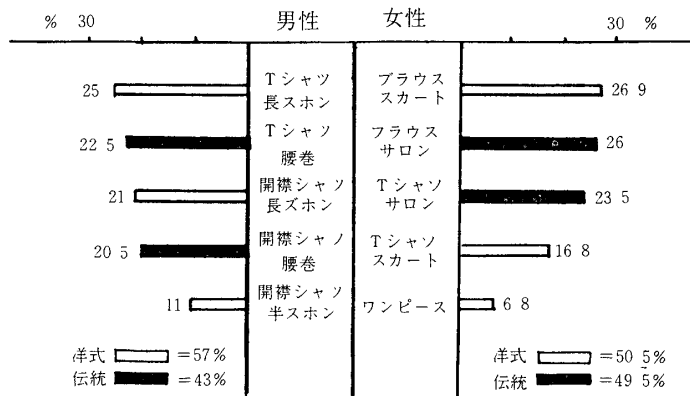


図3 日常の男・女着装の衣服組合せ形式

3. 生活行動と衣服組合せ

表2は生活行動と衣服組合せを一覧にした表である。生活行動の場と衣服の着装の間には，衣服の選択が行われる傾向がある。特に上流家庭の場合，交際範囲が広く外出する機会に着替えをするが，これは地域により或は個人によってもその場面で着用する衣服は異なる。

生活行動とは，日常生活，教会での礼拝，町への買物，他の集落への訪問，農作業，織物，儀式（葬儀，結婚式），学校へ通学などである。

(1) 通学服

調査地域全体に共通していえることは，学校へ通学のための衣服はすべて洋服であることで，これを図4-aに示す。これはキリスト教系の学校であり，制服も無料で貸与されるということである。子供達は家へ帰ってくると服を脱いで着替え，大切にしているとのことである。

(2) 儀式

儀式には，すべての人が伝統衣装である。男性はヒンギコンブ，バジュ（開襟シャツ），スレンダー（肩掛け），ティアラ（頭布）をつけ，女性はブローズ（ブラウス）にラウ（腰布）とスレンダーをつけ盛装するのは前報¹⁾で述べた通りである。

表2 生活行動と衣服組合せ

		衣服名称		生活行動								
				日常	教会	町	訪問	労働	儀式	学校		
男 性	上 衣	Tシャツ	ハシュカウス	○◎					○◎		○◎	
		長袖パテックシャツ	ヘム	○		○	○					
		ワイシャツ	カウス		○	○	○					
		開襟シャツ	バシュ	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	
		肩掛け	スレンダー							○◎		
		頭布	ティアラ							○◎		
	下 衣	半ズボン	チェラナベンテック	○◎							○◎	
		長ズボン	チェラナパンチャン	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎				
		パンツ	チェラナー	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	
		腰巻	ヒンキ	○◎					○◎	○◎		
	女 性	上 衣	Tシャツ	ハシュカウス	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎		○◎
			タンクトップ	ハシュ	○					○		
			ブラウス	フローズ	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	
			ワンピース	ハシュ	○◎							
ブラジャー			ペーハー	○	○		○			○		
キュロットワンピース			ハジュサントイ				○					
チュールレースブラウス			ハンジュサントイクハヤ							○		
肩掛け		スレンダー							○◎			
下 衣		スカート	ハワハン	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎		○◎	
		パンティー	チェラナタラム	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	
	短パンツ	チェラナベンテック	○					○				
	腰布	ラウ	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎	○◎			

○上流家庭

◎一般家庭

(3) 農作業

農作業，織物などの作業には，日常着の着古した衣服を男女とも着用することは，いずれの地域でも同様である。地域によっては伝統的スタイルの場合もあれば，西洋的スタイルの場合もある（図4-b）。

(4) 教会，町，訪問

教会での礼拝，町への買物，他の集落への訪問の場合には，いわゆる“よそいき”を着るのである。しかしこの“よそいき”の衣服の度合は家庭の経済的要因によって異なり，また衣服の組合せも異なる（図5）。

4. 衣服と年齢

(1) 新生児の産着

新生児が最初に身を包む産着が腰布である。筒状に縫われている腰布は体形に合わせた大きさに折りたたんで，布団やおくるみにも使用され多面的な機能を果す（図6）。ラウ（腰布）であれば成長してもそのまま使用出来，自然にかなった賢明な産着である。しかし今日では地域差も見られ，町で購入したベビー服なども着用させている。



a. 通学服



b. 道路の共同除草作業をする人達の労働着

図4 生活行動と衣服組合せ

(2) 幼児の衣服

2才～3才までは素裸で遊びまわっている子供も多いが、上衣としてTシャツだけを着ている子供も多い。子供の衣服はすべて親の判断にまかされている(図7)。その後成長するとともに、一人で衣生活を管理するようになる。

5. 地域別着装形態の比較

図8は地域別に着装形態の比較を男性と女性について示したものである。首都 Waingapu では男性の伝統的スタイル5%に対し西洋的スタイル30%、女性は伝統的スタイル6%に対し西洋的スタイル20%とともに洋式スタイルの出現が高く、Lanbanapuもこれと同傾向を示している(図9-a)。これに比較して西スンバの Anakalang の内陸部では、伝統的スタイルは男性15%に対し洋式6%、女性は伝統22.5%に対し洋式11%と、伝統的スタイルが西洋的スタイルの約2倍強を示し、Meloloも

同傾向が見られる(図9-b)。これらは外来文化接触の度合いが Waingapu などの首都より少なく、また生業、地理的条件などの影響によるものと考えられる。

6. 衣生活の変容

スンバ島の人々の生活は、調査地域によって差が見られた。Waingapu では特にここ1～2年で近代化が進んでおり、テレビ、ビデオ、貸ビデオ、オートバイ、自動車などの店舗が並び、非常な速さで近代化が進んでいる。また、市場には数多くの洋服の既製服や日用品、食糧品の出店が所狭しと並び、人々の購買意欲をかき立てている(図10)。市場はどの町にも必ずあり、多くの人々が集まり、実ににぎわいを見せている。市場へ行けばその町、その村の生活のにおいがそのまま伝わって来て、衣生活の様子もつぶさにわかるのである。Waingapu では洋服の普及により洋装化が進み、伝統的スタイルの人の割合は少ない。しかし町の中心部を離れた地域、或は Melolo, Anakalang では男性は昔ながらのシャツにヒンギ、女性はブラウスにラウといった伝統的衣装姿が多く見られた。しかし子供達はどの地域においてもすべて洋服姿であったことが非常に印象深い(図11)。

首都 Waingapu から西スンバ Anakalang までは調査のためチャーターした車で約5時間の距



図6 新生児の産着



伝統的・西洋的服装のよそいき着
図5 よそいき着 (教会・町・訪問)



a Waingapu の女性の伝統的スタイル
Lanbanapu



図7 子供の遊び着



b Anakalang の男性の西洋的スタイル
Melolo

図9 地域別着装形態の比較

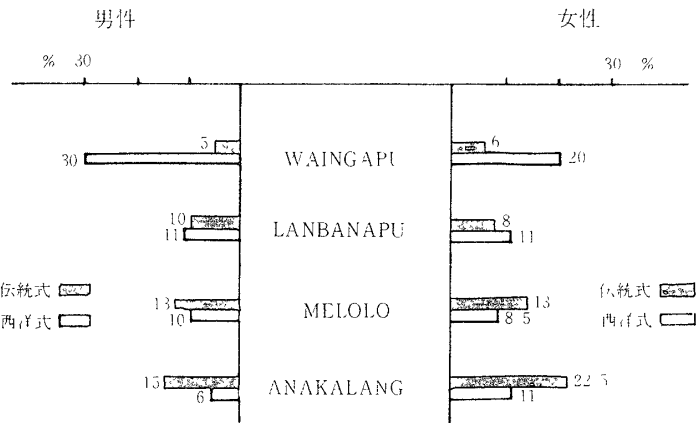


図8 地域別着装形態の比較

離にある。道路は割に整備されているし、バスも回数は少ないが開通している。このことから、Waingapuの近代化の波が情報化の普及によって、水が低きに流れるように生活の中に緩慢ではあるが徐々に浸透し受容されて、伝統的衣生活様式も男性はズボンにTシャツ，女性はスカートにTシャツを中心とした西洋スタイルの衣生活体系へと広がりを見せるのではなかろうか。また調査地域のいずれの小学校を訪問しても、教師から生徒まですべて日本の子供達とまったく変わらない洋服であり、遊具などであった。この流れからも、これらの子供達が成人して再び日常着に伝統衣装を着するようになるとは考えられないのである。例えば伝統的社会構造の強い体制の中である故、葬儀，結婚の際に伝統衣装を晴着として着することはあっても、それはそれとして、この子供達の日常

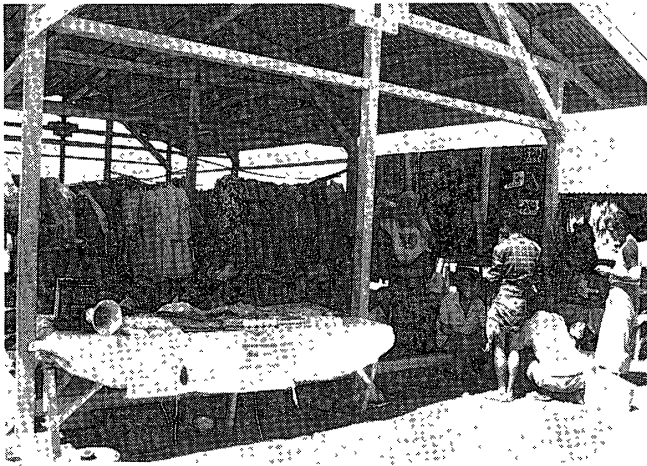


図10 市場の店舗の風景

着に機能的な洋服を着る流れをせき止めることは不可能であろう。

おわりに

スンバ島の4集落における日常衣生活の実態をとおして、衣服の着装および衣生活の変容に視点をあて分析を試みた。

1. 日常の衣服形態は大別すると男女とも①伝統的②西洋的スタイルの二形態に分類される。いずれも下衣により性の分化と形態の分類が確立している。

2. 日常の衣服着装の組合せでは、男女とも洋式スタイルが過半数を占めており、伝統的着装体系の中における集落の衣服文化変容への一端を示しているといえよう。

3. 地域別衣服着装形態の比較では、首都 Waingapu では男女とも、西洋スタイルの出現が高く、Melolo, Anakalang の内陸部では、日常においても伝統的スタイルが多い。これらは外来文化接触の頻度や、生業、

ートにTシャツを中心とした西洋スタイルの衣生活体系へと広がりを見せるのではなかろうか。また調査地域のいずれの小学校を訪問しても、教師から生徒まですべて日本の子供達とまったく変わらない洋服であり、遊具などであった。この流れからも、これらの子供達が成人して再び日常着に伝統衣装を着するようになるとは考えられないのである。例えば伝統的社会構造の強い体制の中である故、葬儀，結婚の際に伝統衣装を晴着として着することはあっても、それはそれとして、この子供達の日常



a Waingapu



b. Anakalang

図11 子供の洋服姿

地理的条件などの影響によるものと考えられる。

4. 衣服文化変容の一側面としてスンバ族の衣服自給のための手作りの染織品は、今や観光資源としての需要へと変わりつつあり、若者による洋服の市販既製品への購入が増加し、従来の交換経済体系から今や貨幣経済体系へと急速に移行しつつある。

最後に、本報告のもととなるフィールドワークにあたって快く御協力頂き、貴重な資料の写真撮影、計測、観察、記録などさせて頂いたインドネシア、スンバ島の現地の方々、および調査に際し終始行動を共にし、言葉の通訳のみでなく現地の方々に対し、意志の疎通面の細かい点まで御配慮頂いた、通訳、和歌浦幸英氏に対し深甚なる謝意を表したい。

文 献

- 1) 古川智恵子・小川由香：日本服飾学会誌，**8**，126～128，日本服飾学会（1989）
- 2) 吉本 忍：インドネシア染織大系（上），236～239，紫紅社（1987）
- 3) 大林太良・リップス：生活文化の発生，68～73，角川書店（1980）
- 4) ヴォルフキーリッヒ：世界の民族と生活，**11**，インドネシア，425～27，ぎょうせい（1981）
- 5) 亘 純吉：焼畑農耕民の日常生活，四天王寺短大紀要，**25**，1～12（1983）
- 6) 佐藤多紀三：インドネシア民族文化，57～64，雄山閣（1986）
- 7) クンチャラニングラット：インドネシアの諸民族と文化，451～465，文遊社（1980）

SUMMARY

By observing the real and fact-findings of the daily life of clothings in four villages at Sumba Island, Indonesia, the transitional processes of the wearing of clothes and of clothing life wear were analyzed, The results are as follows

- (1) : The daily clothes are classified roughly into two forms, namely traditional style and western style. On both of the two styles, the separation of sex and the division of the forms are established by the under-wears.
- (2) : On the combination of the wearing of clothes, in both male and female, the western style holds a majority. This shows the transition of the clothing style in the traditional culture of clothings in the villages.
- (3) : By observing the regional differences in wearing of clothes, the Western style is major at the capital city (WAINGAPU) and the traditional style is major in the inland area (MELOLO, ANAKALANG and etc.). And it is supposed that both of these two styles are influenced by contacting frequently with the foreign cultures, in which the occupation and geographical conditions etc. had ever generated.
- (4) : From the view of the traditional transitions in clothing-life culture, the hand-made dyeing goods necessary for the self-keeping of Sumbanese striped clothes have been changing lately to the sightseeing resources.

And also recently the young people who purchase the foreign ready-made clothes is distinctly on the increase.

So, the traditional barter-exchanging system has been shifting rapidly to the monetary exchange system.